

2020年2月実績概要（メモ）

（2020. 3. 19）

閏年による増加要因がある中、誘導品の生産は定期修理入りや稼働率から前年割れが約半数を占める。

1. 生産動向

イ) エチレン 522,000トン

前月比 +0.6% (+3,300トン)
前年同月比 +7.1% (+34,600トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲6.5%	+3.6%
定修要因等	+3.0%	+5.3%
能力増減	-	+0.1%
稼働率変動	+4.1%	▲1.9%
生産増減率	+0.6%	+7.1%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月91.0% → 当月94.9% ← 前年同月96.5%

定修プラント：前月なし → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の減少のほか、定修入りや稼働率要因からLD、HD、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの16品目でマイナス。PPのみは稼働率要因等から若干のプラスとなった。

前年比では、日数増と稼働率要因等からLD、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、BRなどの9品目がプラス。HD、SM、MMAモノマー、SBR、トルエン、キシレンなどの8品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の減少とともに定修規模の増加や稼働率要因からLD、HD、PSはマイナス。PPは稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、日数の増加と稼働率要因等からLD、PPはプラス。HDは定修規模の増加から、PSは稼働率要因からそれぞれマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月が年始休暇に伴う影響やオレフィン供給ネックもあり4樹脂で出荷が軒並み減少した。これに対し、当月は原料供給の面でも落ち着きを見せたこともあり、前月比では、PP、PSがプラスに転じたほか、LDは前月並み、HDのみがマイナスとなった。

前年比は、PEではフィルム分野の出荷減少が続いていることに変わりなく、特にHDではフィルム用途以外のパイプ用途等での減少も見られ、LD、HDともにマイナスとなった。また、PPでは射出成形分野のほか、繊維分野での出荷が減少した。PSにおいては電機工業用、包装分野での出荷減少からマイナスとなった。

ハ) 輸出

前月は、一時的な輸出の減少が見られたが、当月は、LD、PPは昨年後半レベルの輸出量に戻ったほか、PSもプラスとなった。HDは生産の減少から輸出余力が少なくマイナスとなった。

前年比では、前年の輸出量が時期ずれからやや高めの水準にあったこともあり、LD、HD、PPはマイナス、PSのみがプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSの4樹脂ともに増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PPで上昇、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、HD、PP、PSのいずれも高めの水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		1月末	2月末
LD	+ 6,600	3.5	3.6
HD	+ 1,900	3.4	3.7
PP	+26,600	3.0	3.1
PS	+ 2,000	1.7	1.7